

「国債の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ」（第11回）議事要旨

【日 時】 平成22年7月22日（木）午後4時～5時

【場 所】 日本証券業協会 第1会議室

【出席者】 吉田主査ほか各委員

- 【議 題】
1. 今後の作業方針を踏まえた検討のあり方について
 2. アウトライト取引のT+1決済を展望した場合のレポ取引のあり方に関するアンケート結果について
 3. その他

【議事概要】

○ 議事に先立ち、金融庁より、6月29日に公表した「国債取引の決済リスク削減に関する工程表」について、本ワーキング・グループ（以下「WG」という。）に対して概要以下のとおりコメントが寄せられた。

- ・ 関係の方々の大変な御尽力により工程表を公表して頂き、感謝申し上げます。
- ・ 今後、本WGにおける議論を深め、アウトライトT+2の実現については、工程表に記載のとおり、本年12月末までに合意に至るよう検討を進めて頂きたい。また、アウトライトT+1（以下「T+1」という。）についても、可能な限り実現時期を明示できるよう議論が進むことを期待したい。金融庁としても全力でサポートする所存である。

1. 今後の作業方針を踏まえた検討のあり方について

○ 吉田主査より、6月25日付けで公表した「国債決済期間の短縮に向けた検討状況と今後の作業方針について」を踏まえ、資料1「今後の作業方針を踏まえた検討のあり方について(案)」の説明及び提案があった。このうち、約定照合分科会での検討状況につき、7月の同分科会での議論を踏まえ、副主査より、以下のとおり報告が行われた。

（副主査の報告）

- ・ 7月15日にセルサイドの委員を新たに3社追加して約定照合分科会を開催し、レポT

+1を念頭にフロント照合の電子化等についての検討を行った。

- ・ フロント照合の電子化については、電子メールを利用して出来通知データ授受を行う方を優先的に検討し、本年9月末までを目途に分科会レベルでの枠組み確定を目指していくことで認識共有した。
 - ・ バック照合の迅速化については、まずは、現行の枠組み（資産管理信託を中心とした信託銀行がバック照合を行う方式）を念頭に、照合作業のタイミング・頻度やそれに付随するセルサイド・バイサイドと信託銀行との間の照合データ授受のあり方を検討した。なお、これらの検討はフロント照合の電子化に関する上記の検討事項にも影響を及ぼし得ることから、本年9月末までを目途に両者を一体的に検討することとした。
- 続いて、事務局より、資料1のうち、今後の検討の進め方に関して今回の会合までに寄せられた意見が資料3「今後の検討の進め方に関する意見募集結果」に基づき紹介された。これに対して、委員等より次のコメントがあった。

（委員等のコメント〈矢印は主査による発言〉）

- ・ 2つ目の意見（T+1の実現に対する中小金融機関の対応負担懸念）については、米国のクリアリングバンクにみられるように、決済事務のアウトソースも念頭において、多様なオプションで実現を目指せばよいのではないかと。決済期間短縮化のための様々な可能性を探っていきながら、事務局が提示している方向性で議論を進めて頂ければと思う。
- 1つ目の意見（T+1実現時のレポ取引における資金繰り及びT+1移行時の市場慣行への配慮）については、御指摘のとおりであり、十分に意識しながら整理を行いたい。2つ目の意見については、WGから十分に情報提供を行うなど、幅広い範囲の市場参加者とコミュニケーションを深めていく中で理解を求めて行きたい。
- 上記の意見のほか、席上、資料1について特段の異論は示されなかったことを受け、主査より、同案に沿って今後の検討を進める旨の統括が行われた。

2. アウトライト取引のT+1決済を展望した場合のレポ取引のあり方に関するアンケート結果について

- 次に、事務局より、資料1に沿い、今回の会合に先立ち委員等に対して行われた、T+1を展望した場合のレポ取引（特にT+0レポ取引）の執行に際して想定される事象や問題の有無に関するアンケートの結果について、資料2「アウトライト取引のT+1決済を展望した場合のレポ取引のあり方に関するアンケート結果の概要」に基づき報告された。なお、今次アンケートは回答期間が短かったこともあり、回答を寄せられなかった委員もいたため、結果は暫定整理との位置付け。
- この後、席上、主査より、アンケートについてあらためて意見聴取が行われたものの、委員より具体的な意見は出されず、今後改めて事務局の叩き台を基に検討を行うこととなった。

3. その他（次回会合の進め方等）

- 最後に主査より、2.での意見聴取の状況を踏まえ、次回会合（9月2日）に向けた作業の進め方について概要以下のとおり説明があった。
 - ・ 次回会合では、T+1を展望した場合のレポ取引のあり方（取引執行時間帯等）に関する叩き台案と、それを実現するための論点整理を提示したい。
 - ・ 上記の準備作業の過程において、事前に個別にヒアリングを行うことも想定しているので、関係委員におかれては是非協力頂きたい。
 - ・ その他、アンケートの未回答分も含め、本件について意見があれば、なるべく早いタイミングで事務局に書面で連絡して頂きたい。寄せられた意見は上記の叩き台案と論点整理にできる限り反映させる方針である。

以 上